

飯山市の保育環境に関する報告書（素案）

—魅力ある保育の実現に向けた現状と課題—

全国的な少子化が進行する中、飯山市は待機児童のいない安心・安全な保育環境を維持しています。しかし、保育士不足や施設の老朽化といった課題が顕在化しており、この現状を将来的に維持するには適切な対策が求められています。本報告書では、飯山市の保育環境における現状を整理し、課題とその解決に向けた方向性を提示します。

1. 現状と課題

○子どもにとっての保育園

- ・公立保育園では園児数の減少による異年齢の混合保育が増えており、子どもの発達段階に応じた保育が難しい環境になってきていると思われます。
- ・安心安全に預けられる、質の高い保育が求められています。
- ・3歳未満児には市内産コシヒカリの主食が提供されていますが、公立保育園では3歳以上児は主食の提供がなく、白米を持参しています。
- ・複数保育士による保育対応が実施されていないため、不適切保育が発生するリスクが存在しています。
- ・耐震対応はされているものの、3歳未満児対応の施設設備が不足しています。
- ・施設の衛生状態や防犯対策、年齢に適した遊具の導入が求められています。
- ・子どもの安全のため、老朽化への対応や改修が求められています。

○保護者にとっての保育園

- ・希望する園に通うことができない場合があります。
- ・土日や休日、病後児保育など利用にあたり保護者負担が多く、お弁当や午睡布団の持参、利用申請の手続きなどの改善を求める声があります。
- ・アプリやICT機器の活用による、写真付きの情報発信や電子申請への要望があります。
- ・近くの園に通えない場合の通園方法（通園バスや補助制度）への不安があります。
- ・未満児の保育料無償化を望む声があります。

2. 保育提供体制の方向性

- ・地域や近所の方との交流や関係性を大切にし、地域に愛される保育園を目指す。
- ・公立保育園は、施設の改修（特に3歳未満児の保育に適した施設整備）が必要。
- ・子どもの健やかな成長や個性を生かした保育のためには、年齢ごと一定程度の人数となるクラス配置が望ましい。
- ・3歳以上児へ市内産コシヒカリの自園炊飯による提供と、その無償化による保護者負担軽減。
- ・保育士の確保およびゆとりある職員配置により、複数担任制を標準化することにより、より安全で質の高い保育の実現を目指す。
- ・保護者の多様なニーズに応えるための保育サービス（病後児・休日保育等の充実）拡充。
- ・申請手続き等の負担軽減を図るため ICT 導入の推進。
- ・地域を問わず、全ての遠距離通園者に公平な補助制度の見直しが必要。
- ・未満児の保育料無償化による保護者の負担軽減と平行して、自宅で育児をしている家庭への支援も必要。
- ・小学校跡地などの未利用施設を活用した保育施設・子育て支援拠点整備の検討。
- ・地域特性を活かした保育運営が必要。公立保育園は全園一律の対応にこだわらず、各園の特性に応じた柔軟な運営を試行的に導入。
- ・少子化が進んでいるため、市内全体で教育及び保育の提供について考え、保護者に対する子育て支援を行う施設のあり方の検討が必要。

本報告書は、飯山市における保育環境の現状と課題を整理し、課題解決に向けた方向性を提案しました。子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、地域社会全体が共生できる保育環境の整備が重要です。本報告書が今後の施策立案の参考となれば幸いです。